

施設・環境

1. 振動環境

最大の「地の利」を活かすために

- サイトサーベイ（ステーションの深さ、振動源からの距離）
→高周波の振動は地表からの深さ、震動源からの距離による
⇒遠く、深く
- 地盤（断層・破碎帯を避ける）
→池の山には比較的大きな破碎が存在する
⇒ボーリングによる地質調査
- 人工的振動源（コンプレッサー系、ポンプ系、送風系、水系）
⇒Best Effort で避ける

2. 温度・湿度環境

温度変化・勾配、高湿度、（酸欠）を避けるために

- 坑内通常：気温 13-14℃（通年）、湿度 90%以上
- LISM（20m）できたて：気温～20℃、湿度 80%以上
→この環境では錆、黴の繁茂
- LISM（20m）現在：：気温～23+/-0.5℃、湿度 40-50%
→エレキの発熱と、除湿器の効果
⇒外気の導入・空調（部分的でも）
⇒除湿（必須）・温調

3. 電気環境

高安定電源と良質アースのために

- 供給元：北陸電力
 - f、V 変動 $\pm 5\%$ 程度、瞬停（昨年度実績、年数回）
 - ⇒UPS
- アース
 - 坑内ではアースはとれない
 - SK は坑外から保安用のアースを 3 種類布設（特別第 3 種はなし）
 - ⇒特別第 3 種のよいアースをひく
 - ⇒水？

4. おまけ（副産物）

地下水をうまく処理するために

- 地下水！
 - SK：1-2 tons/min.
 - 側溝：～10 tons/min.
 - 防水工事はできるが完全には不可
 - 自然流下、ポンプ揚水した場合の振動環境への影響
 - 流下勾配 1%でもレベル差 3m@3km
 - ⇒？